施工説明書

INAX

# 小型電気温水器（先止め式）　EHP-131

## 施工時には必ずお守りください。

以下は安全のための注意です。施工前に必ず読み、施工時に必ずお守りください。
この説明書では、誤った施工による事故を未然に防ぐため、工事者または使用者の安全に関する注意事項をマークをつけて表示しています。
マークの意味は次の通りです。施工前によく読み正しく施工してください。

### 施工の用語の説明

⚠ **警告**　作業を誤った場合に設置作業者が、又は設置工事の不具合によって人が、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

⚠ **注意**　施工を誤った場合に、人が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

上記に述べる軽傷、物的損害、人とはそれぞれ次の様なものをいいます。
軽傷　：治療に入院や長期の通院を要さない、ケガ、ヤケド、感電などをさします。
物的損害：家屋、家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害をさします。
人　：本機器の工事に携わる者、または使用者を想定しています。ただし使用者は、購入者だけでなくその家族、来客、購入者から機器を譲渡された人なども含みます。

### 記号の説明

⚠「注意しなさい！」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

🚫「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

❗「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⏚「必ずアース接続をしなさい！」

### ⚠ 警告

⏚ ○必ずアースはD種（第3種）接地工事（100Ω以下）を行ってください。
※感電の恐れがあります。

🚫 ○浴室など湿気の多い場所、または屋外へは設置しないでください。
屋内でも点検が困難な隠ぺいされた場所には設置しないでください。
※故障、感電、火災の原因になります。

❗ ○使用する電源、消費電力を本体の定格銘板で確認し、必ずそれに適した配線をしてください。
※火災の原因になります。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
この説明書は、同梱の「取扱説明書」とともに施工完了後、お客様にお渡しください。

## ⚠ 注意

○機器内の水が空の場合は、電源スイッチを「入」にしないでください。
※機器の破損、ヤケドの恐れがあります。

○この機器は車両、船舶で使用しないでください。
※機器の故障だけでなく、漏電、漏水などの恐れがあります。

○この機器は太陽熱温水器や、他の給湯機器と接続しないでください。
※機器が破損し漏水の恐れがあります。

○この機器は、水圧0.75MPaまでの範囲でご使用ください。また、水圧が0.5MPa以上になる高水圧地域では必ず減圧弁セット（FH-1E　別売品）を使用してください。
※水圧が高い地域に設置した場合、止水時に缶体内部の水圧が高くなり、過圧逃し弁もしくは逃し弁から水がふき出し続ける恐れがあります。

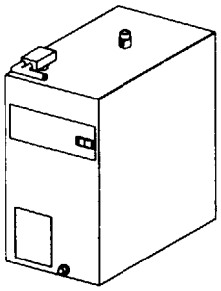
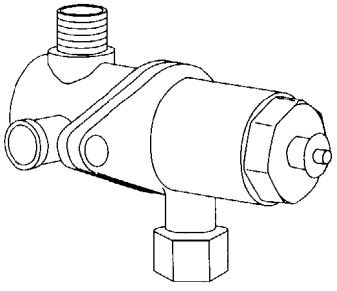
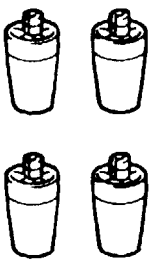
○過圧逃し弁からの溢水配管は、確実に配管施工してください。
※漏水の恐れがあります。

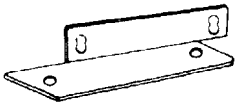
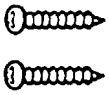
○給湯配管には、必ず断熱材を取り付けて、配管に直接手がふれないように施工してください。
※ヤケドの恐れがあります。

○自家製井戸水は地方条例に基づく飲料水以外は使用しないでください。
※漏水の恐れがあります。

## ■開梱

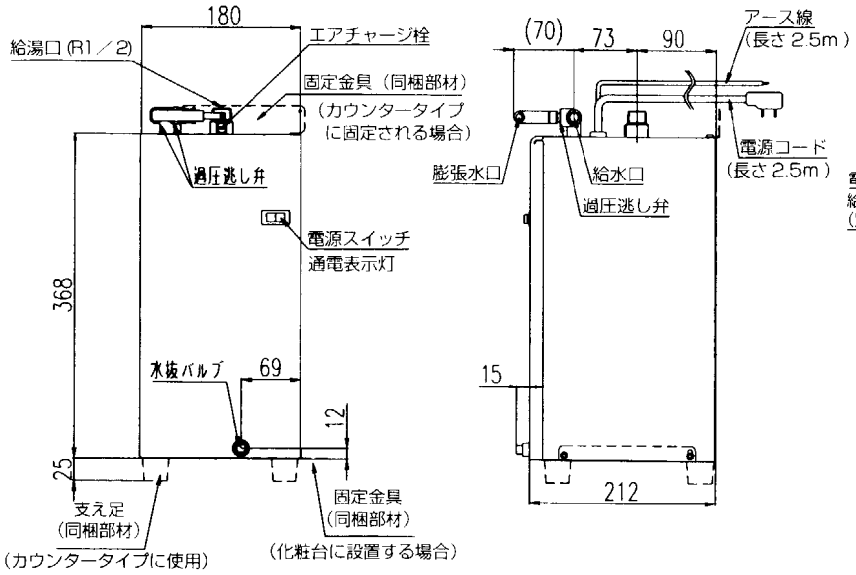
施工前に同梱部品を確認してください。

| 本体　1個 | 給水分岐継手　1個 | 支え足　4個 | 排水用ビニールホース　1個 |
|---|---|---|---|
|  |  |  | |

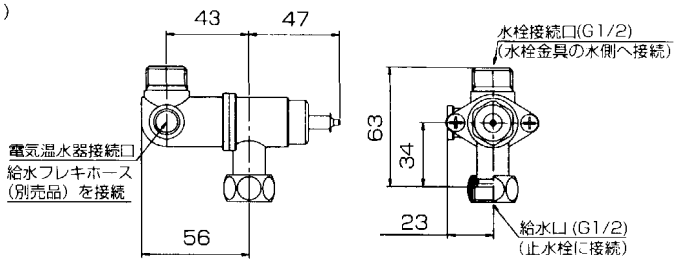
| 固定用金具　1個 | 固定用ネジA(4×20)<br>2個 | 固定用ネジB(4×10)<br>2個 | シートパッキン　1個 | 説明書セット　1個<br>(保証書・施工説明書) |
|---|---|---|---|---|
|  |  | | | |

# ■EHP－131寸法図

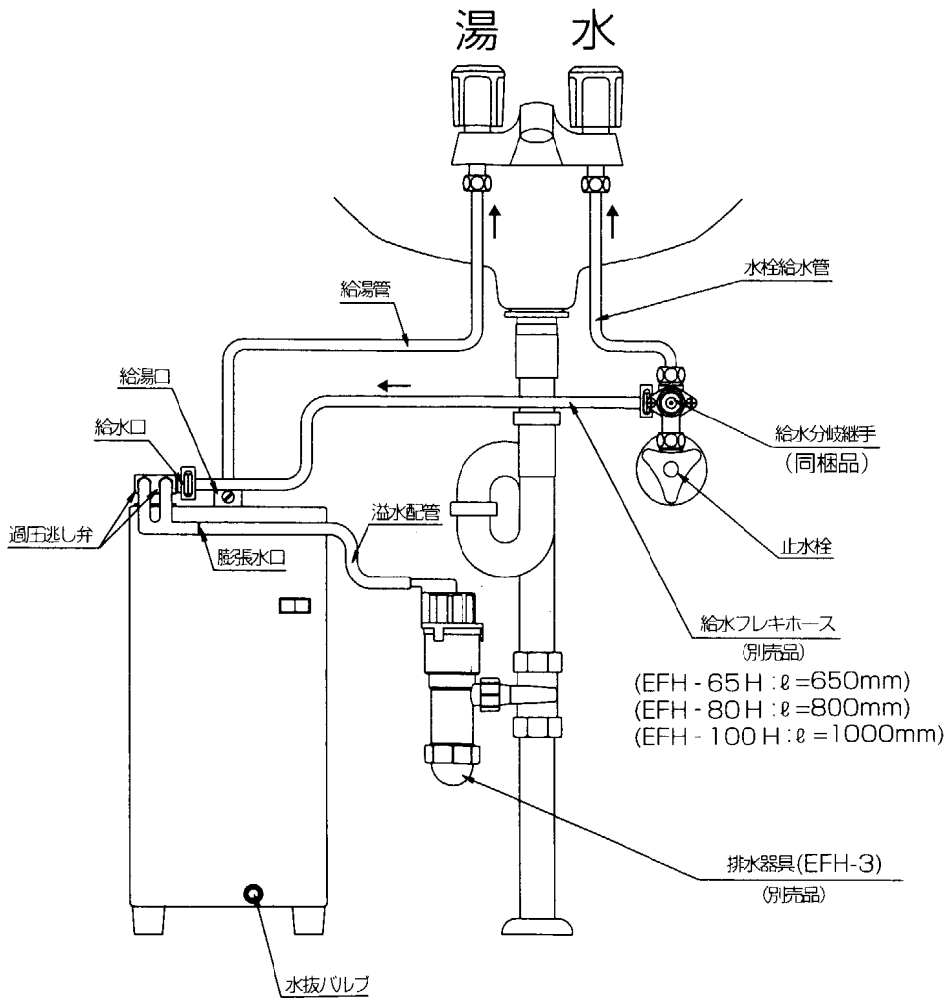
**本体**




**給水分岐継手**




# ■標準配管完成図



## ■必要別売品

※給水フレキホースがないと接続できません。下記の「給水フレキホース選定のめやす」を参考にして、必ず別途用意してください。

・給水フレキホース：品番　EFH-65H、80H、100Hのいずれか

・排　水　器　具：品番　EFH-3（カウンタータイプ用）、EFH-3K（化粧台用）のいずれか

（参考）給水フレキホース選定のめやす

| 品番 | ホース長さ | 使用対象 |
|---|---|---|
| EFH-65H | 約650mm | ・間口サイズ800までの化粧台<br>・温水器右面から止水栓までの距離が270mm以内の場合 |
| EFH-80H | 約800mm | ・上記以上のサイズの化粧台<br>・温水器右面から止水栓までの距離が270mm以上の場合 |
| EFH-100H | 約1000mm | |

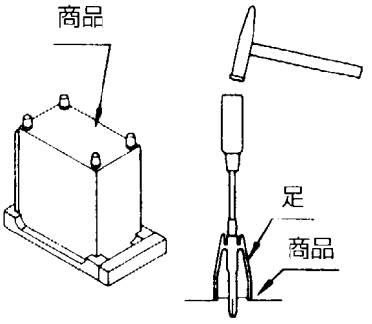
※止水栓位置、温水器の設置位置等により差異が生じますので、ご注意ください。

## ■取付手順

### 1. 電気温水器の固定

※電気温水器の固定方法は、カウンターに取り付ける場合と化粧台に取り付ける場合の2通りがあります。

### 〈1-1　カウンターに取付ける場合〉




**1-1-1. 足の取付け**

洗面化粧台に収納せず床に置いてご使用の場合、排水の高さを確保するため足を取り付けます。

※洗面化粧台に収納してご使用の場合は不要です。
一度取り付けますと、取外しができません。

①梱包の上緩衝材を台にし、商品を倒立させてください。

②足を本体の穴に入れてドライバーなどで確実に打ち込んでください。

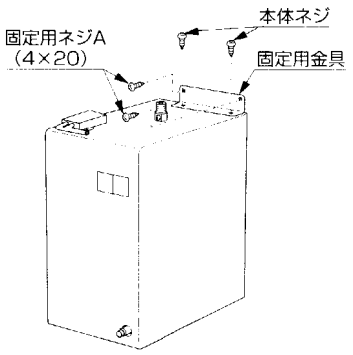
**1-1-2. 電気温水器の固定**

①電気温水器に固定用金具（同梱部品）を取り付けます。その際、電気温水器本体に取付けられているネジを一度外し、そのネジを使用して固定金具を取り付けてください。

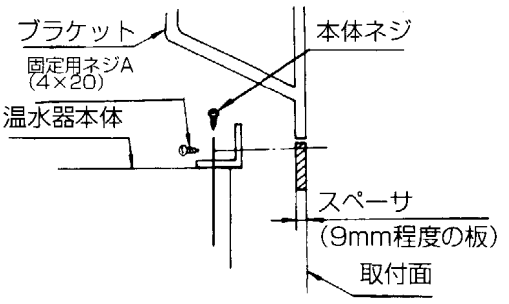
②取付面の強度が充分であることを確認した後、固定します。（図1－A参照）

③カウンター取付ブラケットと固定用金具が当り取付面との間にスキマができる場合は、スペーサ（9mm程度の板）を入れてスキマをうめて②と同様に固定します。（図1－B参照）

※上記の②、③の方法で温水器の取付けができない場合は、固定金具セット（KK－060　別売品）を別途用意してください。




（図1－A）




（図1－B）

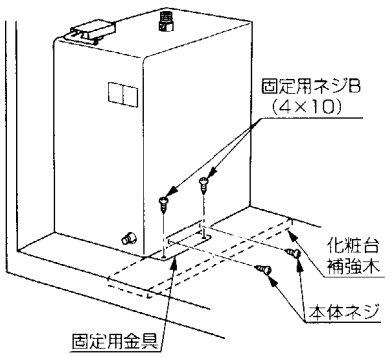
## 〈1-2 洗面化粧台に取り付ける場合〉

### 1-2-1. 障害物の確認

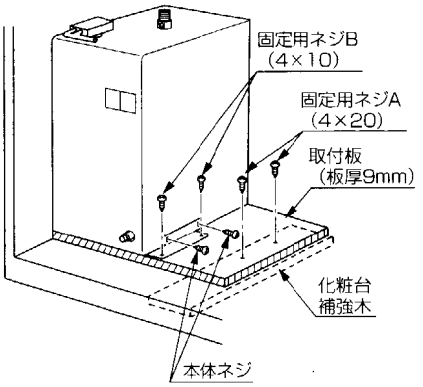
電気温水器本体を化粧台キャビネット内に入れ、電気温水器の前方に障害物がないことを確認します。
※障害物があると点検の際に前扉が外れなくなります。

### 1-2-2. 電気温水器の固定

①電気温水器に固定用金具（同梱部品）を取り付けます。その際、電気温水器本体に取り付けられているネジを一度外し、そのネジを使用して固定金具を取り付けます。
②化粧台底面の補強木の位置を確認し、固定金具の下に補強木があれば図1－Cの様に固定します。
③補強木と固定金具の位置が一致しない場合は、図1－Dの様に取付板を別途準備して固定します。




（図1－C）




（図1－D）

## 2. 給水分岐継手の取付けと溢水配管

※電気温水器を使用する地域の水圧によって止水栓に接続する部品が変わります。

**○この機器は0.75MPaを超える高水圧地域では使用しないでください。**
**※機器の破損、漏水の恐れがあります。**

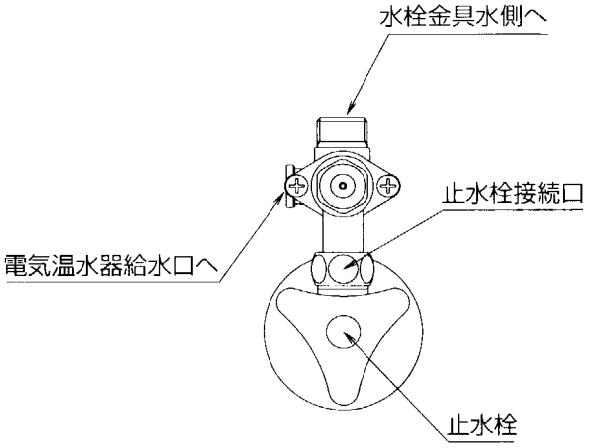
### 2-1. 水圧が0.5MPa以下の場合（本体に付属の給水分岐継手を使用します。）

①給水分岐継手の止水栓接続口と止水栓を接続します。（図2－A参照）

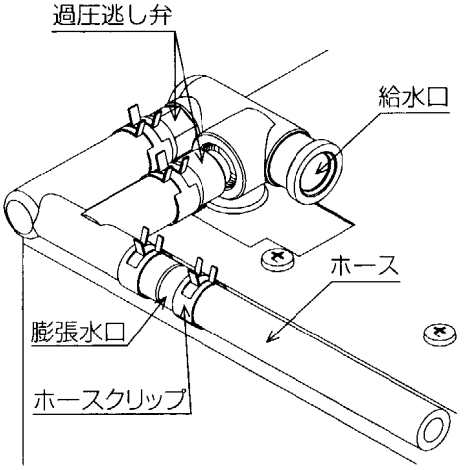
**○給水分岐継手の接続は、必ず工具の2丁掛にて行ってください。**
**接続部には必ず同梱のシートパッキンを使用して接続してください。**
**※漏水の恐れがあります。**

②過圧逃し弁の溢水配管を行います。（図2－B参照）
別売の排水器具（EFH-3またはEFH-3K）付属のホースにホースクリップを取り付け、膨張水口の先端とホースを接続します。
※ホースクリップは必ず使用してください。
※排水器具の取付けは、排水器具に付属の施工説明書に従って行ってください。

**○過圧逃し弁からの溢水配管は、確実に配管施工してください。**
**※漏水の恐れがあります。**




（図2－A）




（図2－B）

**2-2.　水圧が0.5MPaを超える場合**（別売品の減圧弁セットを使用します。）

①減圧弁セット（FH-1E 別売品）を止水栓に接続します。
※本体に付属の給水分岐継手は使用しません。
※減圧弁セットの取付方法は減圧弁セットの施工説明書に従って行ってください。

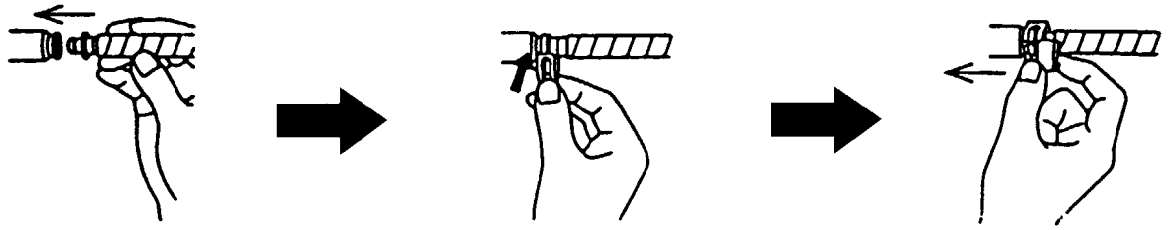
②別売の排水器具（EFH－3、またはEFH－3K）を使用し、指定の溢水配管を行います。
※溢水配管は、減圧弁セットの施工説明書に従って行ってください。
※排水器具の取付けは、排水器具の施工説明書に従って行ってください。

## 3. 配管手順

①市販のステンレスフレキシブル管（1／2B：呼び径13mm）を、混合水栓の湯側および水側に接続します。

②給水分岐継手と電気温水器の給水口を、別売品の給水フレキホースで接続します。（下図参照）
※給水フレキホースは無理な曲がりが生じないように接続してください。（R30以上がめやすです）

ホースを差し込みます　　クイックファスナーをはめます　　カバーを取りつけます



③混合水栓の湯側に接続したステンレスフレキシブル管を電気温水器の給湯口に接続します。

④混合水栓の水側に接続したステンレスフレキシブル管を給水分岐継手に接続します。

**○接続部には必ずシートパッキンを使用して接続してください。**
**※漏水の恐れがあります。**

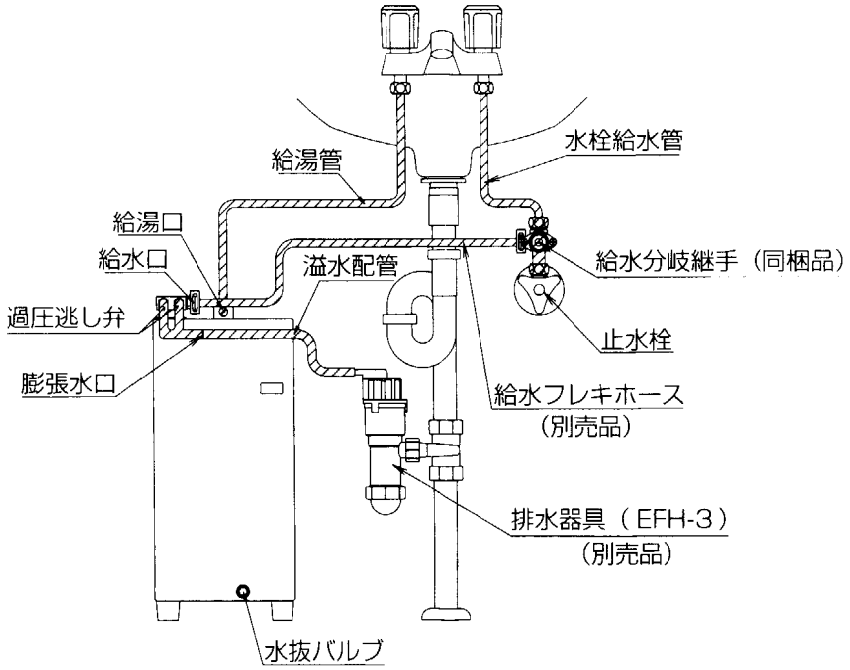
⑤給湯側のステンレスフレキシブル管に市販の断熱材を巻きます。

**○給湯配管には、必ず断熱材を取り付けて、配管に直接手がふれないように施工してください。**
**※ヤケドの恐れがあります。**

※配管は配管内のゴミを取り除いてから接続してください。また通水後はストレーナーの掃除をしてください。

## ■凍結予防

室温が0℃以下になる所で使用する場合は、必ず給湯管、給水フレキホース、水栓給水管、給水分岐継手、過圧逃し弁、溢水配管に凍結予防工事（凍結防止ヒーターによる）を行ってください（下図の ▨ 部）。




## ■電気工事

①電気温水器の取付位置より1.5m以内の所に100V・15Aの専用コンセントを用意します。
②D種（第3種）の接地工事をします。

**○必ずアースはD種（第3種）接地工事（100Ω以下）を行ってください。**
**※感電の恐れがあります。**

※EHP－131は450Wの電力を消費します。必ず機器に適した容量で電気工事を行ってください。

## ■施工後の確認・処置

### 1. 溢水配管の確認

電気温水器の取付けが完了しましたら、必ず溢水配管が行われているか確認してください。

**○水圧が0.5MPa以下の場合、過圧逃し弁からの溢水配管が行われているか確認してください。**
**○水圧が0.5MPaを越える地域では、減圧弁セット逃し弁の溢水配管が行われているか確認してください。**
**※漏水の恐れがあります。**

### 2. 通水、流量の確認

溢水配管の確認が完了しましたら、通水と流量の確認をしてください。
①給水・給湯・溢水配管・排水器具が確実に接続されていることを確認した後、止水栓を開けます。
②混合水栓の水側を開け、水が出ることを確認した後に水側を閉め、湯側を開けます。
③数分するとタンクが満水となり、混合水栓の吐水口から水が出ます。
④混合水栓の湯側を閉め、各接続部から漏水がないことを確認します。
⑤混合水栓から必要以上の水量、あるいはオーバーフロー能力以上に吐水されない様、止水栓を調節します。

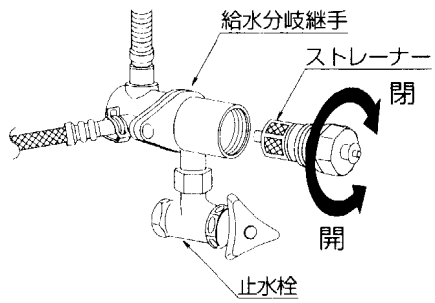
## 3. 電気温水器の通電

①満水になったことを確認し、電源プラグをコンセントに確実に差し込みます。

> ○機器内の水が空の場合は、電源スイッチを「入」にしないでください。
> ※機器の破損、ヤケドの恐れがあります。

②電源スイッチを「入」にして、通電表示灯が点灯することを確認します。

## 4. ストレーナーの掃除




①「水抜方法」に従って、機器内の水を抜きます。
②モンキーレンチを利用してストレーナーを取り外します。
③ストレーナーの網目に詰まったゴミをブラシ等で取除き、水洗いします。
④掃除の後、ストレーナーを取り付けて水漏れのないことを確認します。
※減圧弁セット（FH-1E）を取り付けた場合は、減圧弁セットの施工説明書に従ってストレーナーの掃除を行ってください。

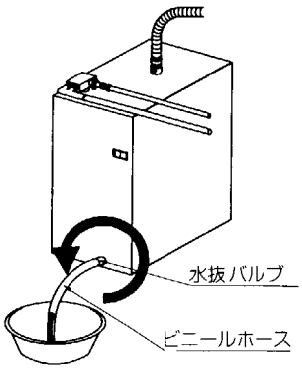
## ■水抜方法

施工後の確認後、引渡しまでに凍結の恐れがある場合は、以下の要領で機器内の水を抜きます。

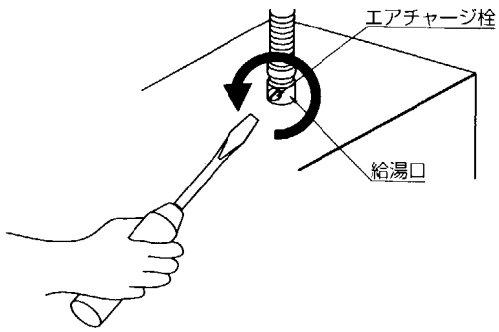
①電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜きます。
②混合水栓の水側を開け、次に湯側を開けて、機器内のお湯を出し切ります。

> ○必ず水と混合して湯を出してください。
> ※高温の湯によりヤケドの恐れがあります。

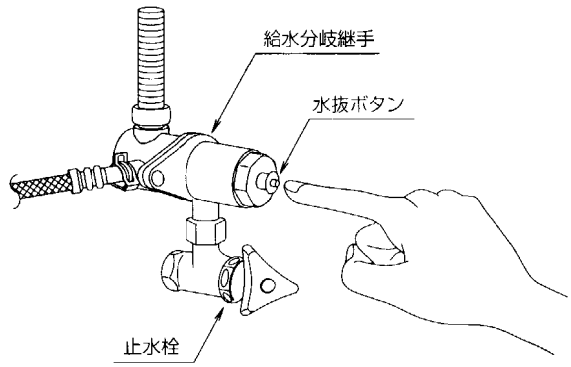
③止水栓を閉めます。
④水抜バルブに排水用ビニールホースを取り付け、洗面器等で排水した水を受ける準備をします。
⑤水抜バルブを開けます。（下図1参照）
※手動で左へ2～3回転してください。固くて回しにくい場合はペンチを使用してください。
⑥排水をしやすくするために、給湯口のエアチャージ栓を開けます。（下図2参照）
※マイナスドライバー等を利用して左へ2～3回転してください。
⑦給水分岐継手の水抜ボタンを押してください。（下図3参照）
⑧タンク内の水が抜けたら、水抜バルブ、エアチャージ栓を閉めます。
以上の操作で排水は完了です。



（図1）



（図2）



（図3）

## ■お問合せ先

**（株）INAX「お客様相談センター」**
TEL　0120－1794－00
FAX　0120－1794－30
**受付時間　平日　　9：00～19：00**
**土日・祝日 10：00～18：00（年末年始、夏季休暇は除く）**